

2024年9月12日

最近の長野県経済の動向 (月例調査)

概要

全国景気*	一部に足踏みが残るものの緩やかに回復している
長野県内景気	足踏みの状態にある
6月の生産動向	一部に弱さがみられるも持ち直しつつある
7月の個人消費	乗用車新車販売は7カ月ぶりに前年を上回る
7月の公共投資	公共工事保証請負額は7カ月ぶりに前年を下回る
7月の住宅投資	新設住宅着工戸数は4カ月ぶりに前年を上回る
7月の雇用情勢	有効求人倍率は横ばいで推移

今後は、個人消費に影響を与える実質賃金の伸びがプラスに転じ、推移していくかどうかに注視する必要がある。

※内閣府「月例経済報告(2024年8月)」より

照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部

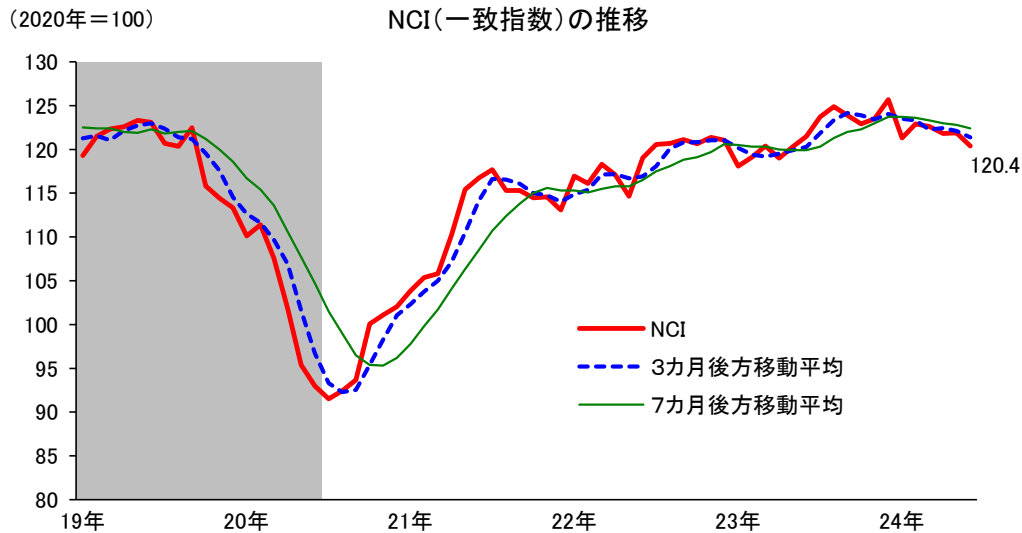
担当 桑井、伊東

電話 026-224-0501

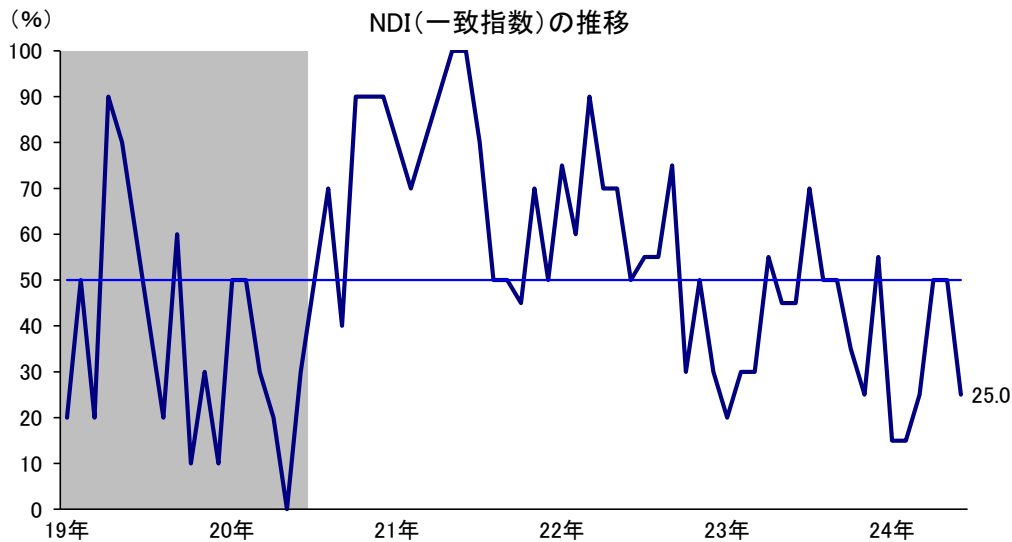


景気動向指数

- ・6月のNCI(一致指数)は、120.4と前月と比較し△1.5ポイントとなった。3カ月後方移動平均は同△0.7ポイントと2カ月連続で低下し、7カ月後方移動平均は同△0.4ポイントと5カ月連続で低下した。NCI(一致指数)は、足踏みを示している。
- ・NDI(一致指数)は、25.0%となり、景気判断の分かれ目となる50.0%を3カ月ぶりに下回った。



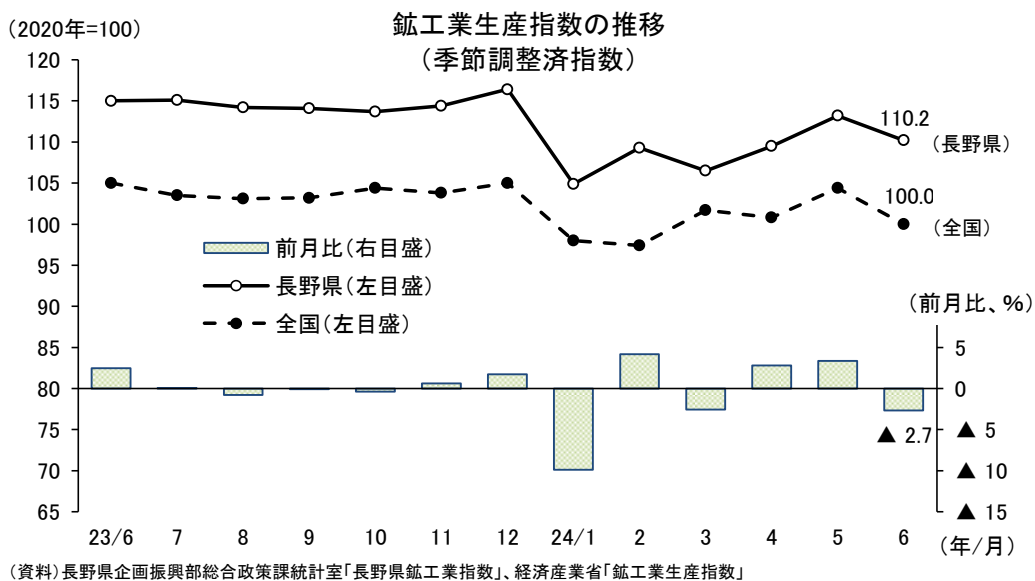
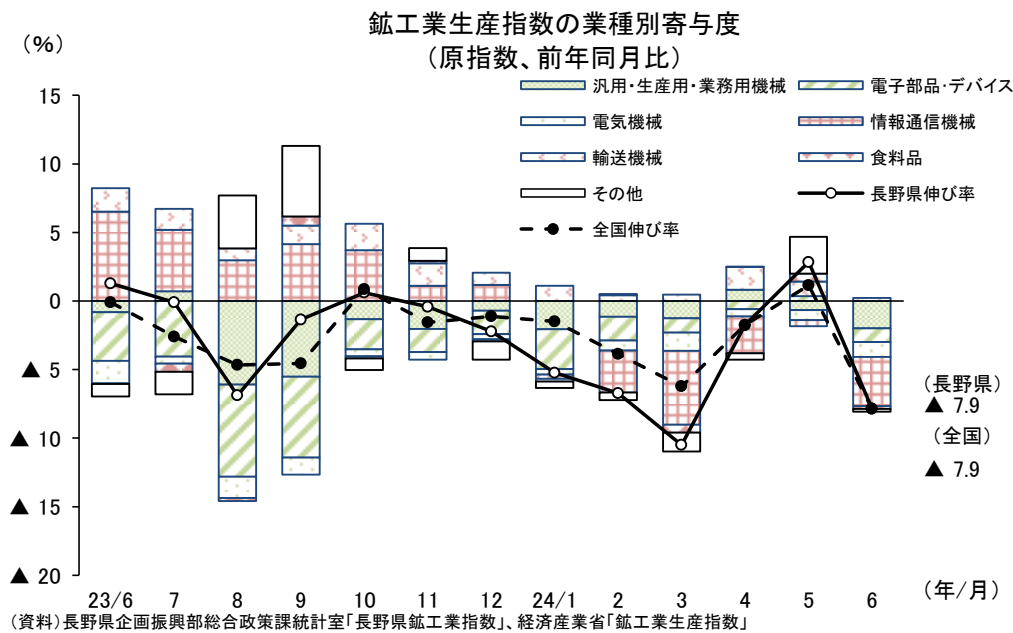
(資料)当研究所「長野県景気動向指数」
 (注) 1.NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す
 2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す



(資料)当研究所「長野県景気動向指数」
 (注) 1.NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す
 2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す

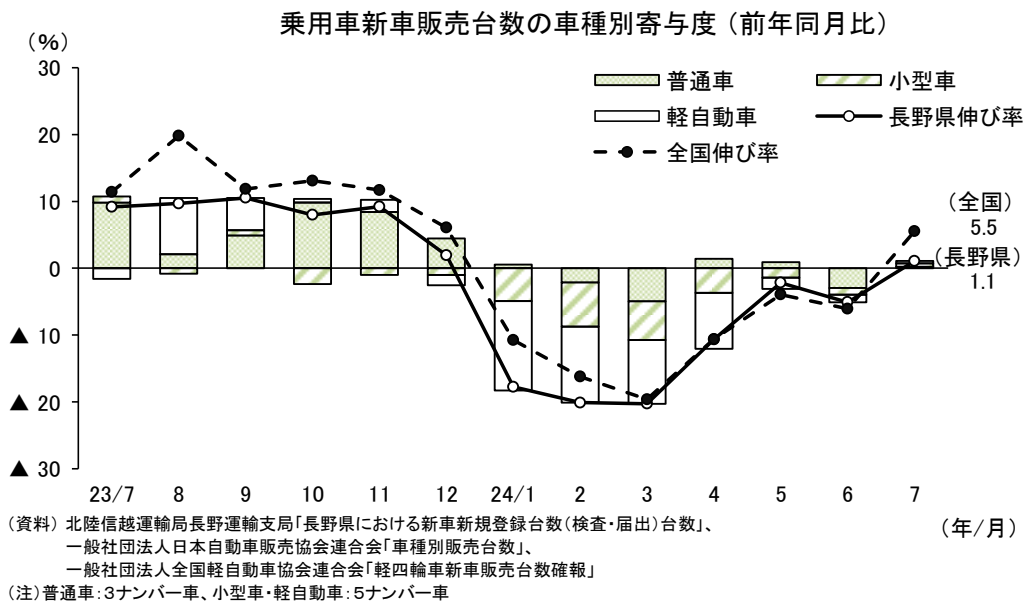
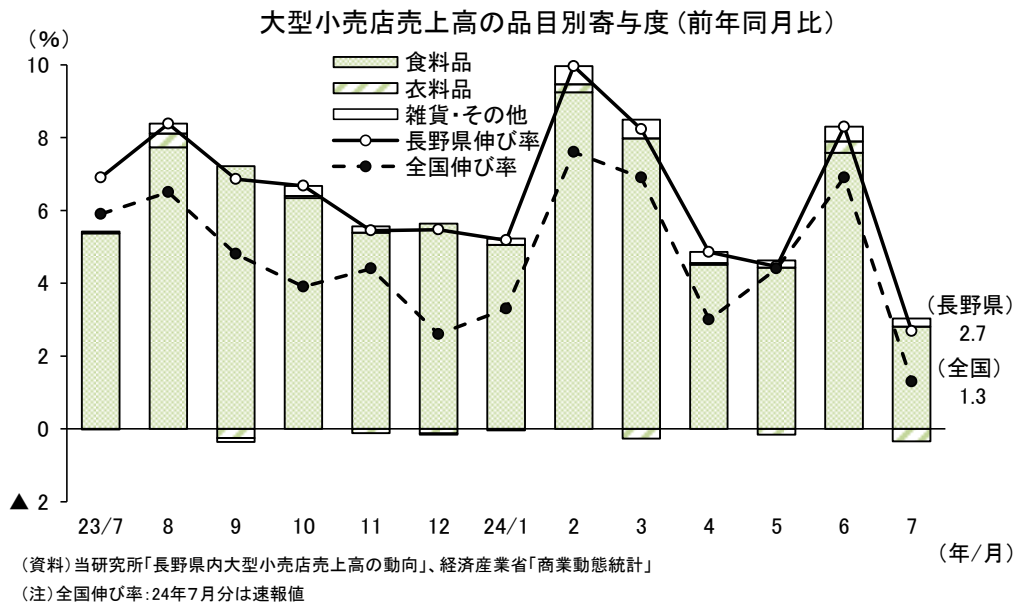
一部に弱さがみられるも持ち直しつつある

- ・6月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比△7.9%、季節調整済指数が前月比△2.7%となった。
- ・季節調整済指数は3カ月ぶりに前月を下回り、原指数は2カ月ぶりに前年を下回った。中国経済の減速に伴う外需の縮小などが続き一部に弱さがみられるものの、生産は基調的に持ち直しつつある。
- ・主要業種別にみると、「輸送機械」が前年を上回ったものの、「情報通信機械」「汎用・生産用・業務用機械」「電子部品・デバイス」などが前年を下回った。



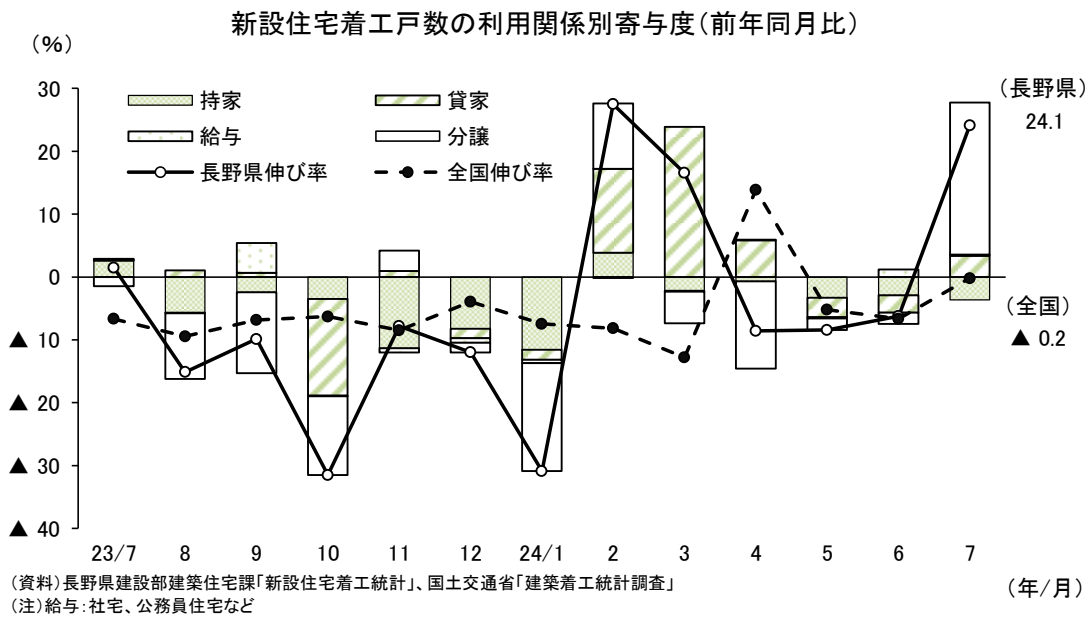
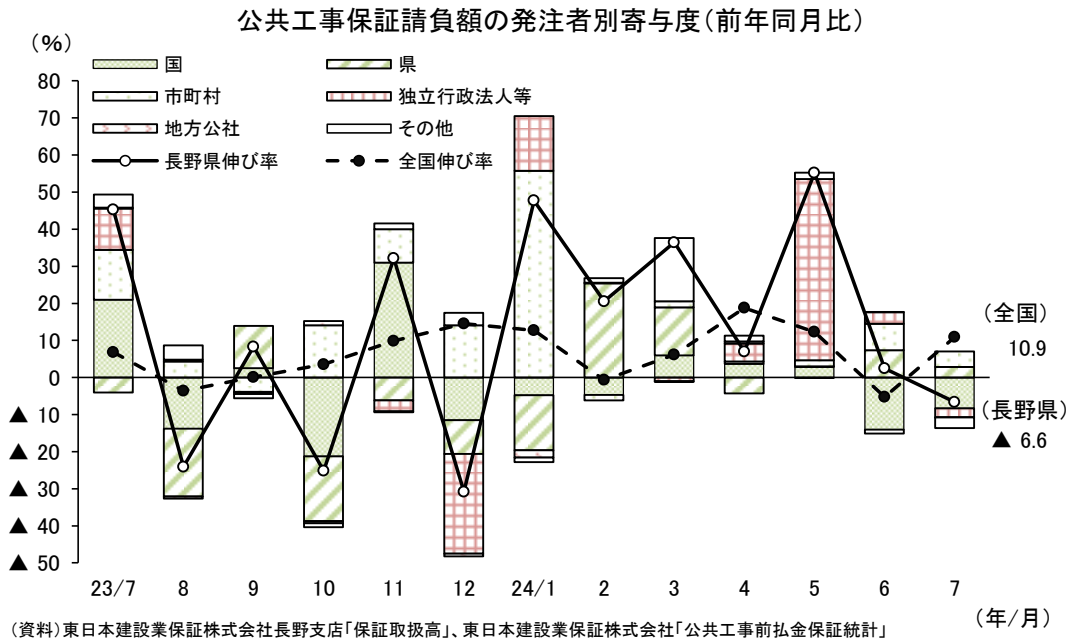
乗用車新車販売は7カ月ぶりに前年を上回る

- ・7月の大型小売店売上高は、前年同月比+2.7%（売場面積調整前）となり、34カ月連続で前年を上回った。食料品は、生鮮食品のほか、飲料や氷菓などの盛夏商材を中心に堅調だったほか販売価格の上昇もあり、同+3.3%となった。衣料品は、季節衣料を中心に販売が低調で、同△7.3%だった。雑貨・その他は、化粧品や日用品が堅調で、同+2.5%となった。
- ・7月の乗用車新車販売は、一部の人気車種のモデルチェンジなどを背景に前年同月比+1.1%と7カ月ぶりに前年を上回った。車種別にみると、普通車が同+0.6%と2カ月ぶりに前年を上回ったほか、小型車は同+2.4%と10カ月ぶりに、軽自動車は同+0.9%と8カ月ぶりに前年を上回った。



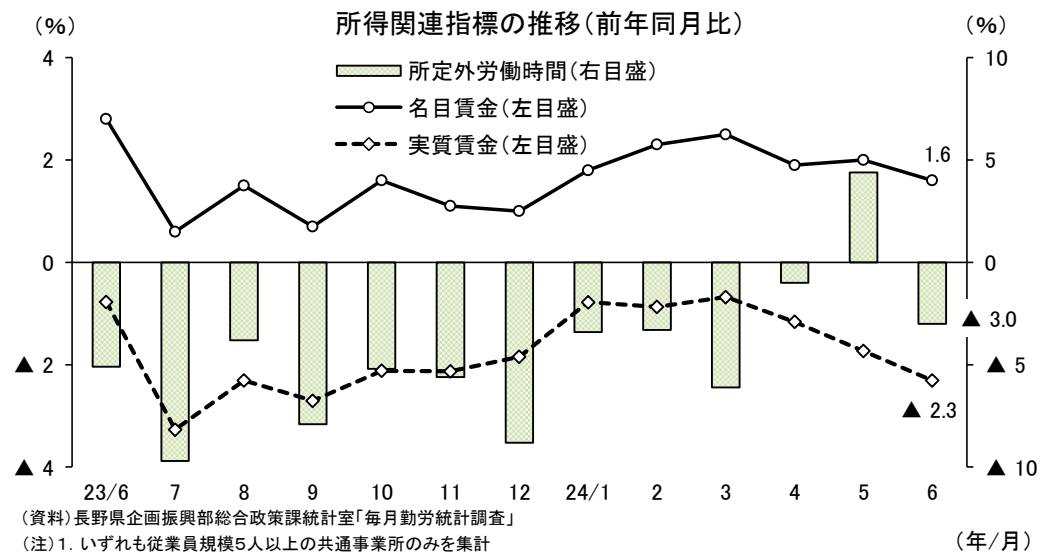
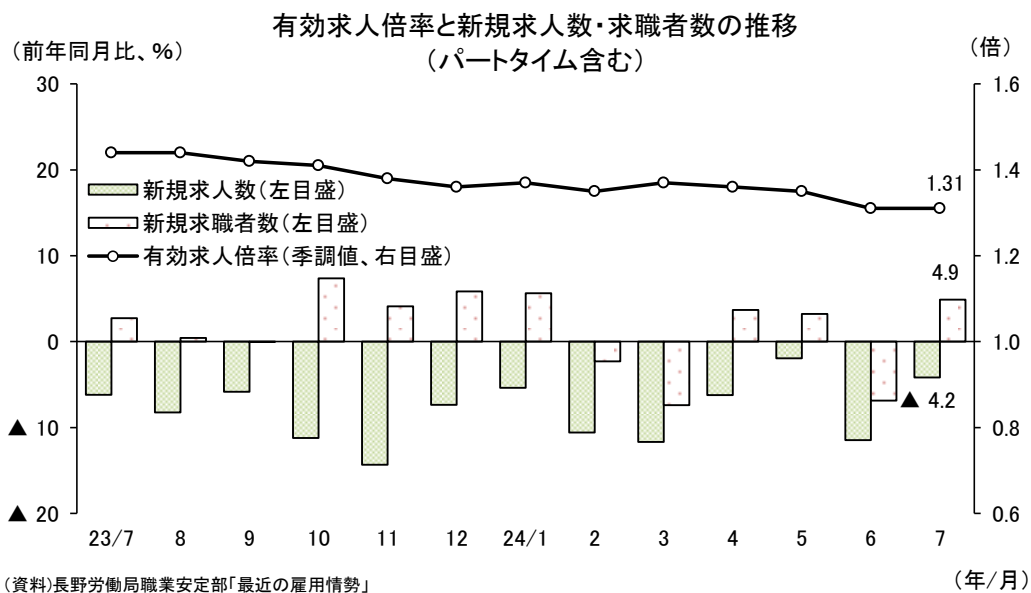
公共工事保証請負額は7カ月ぶりに前年を下回る

- 7月の公共工事保証請負額は、前年同月比△6.6%の211億6,800万円となり、7カ月ぶりに前年を下回った。発注者別にみると、県が同+16.4%、市町村が同+10.4%と増加したものの、国が同△30.2%、独立行政法人等が同△26.9%、地方公社が同△3.0%、その他が同△51.9%と減少した。
- 7月の新設住宅着工戸数は、前年同月比+24.1%の1,292戸と4カ月ぶりに前年を上回った。利用関係別にみると、持家が同△6.2%と減少したものの、貸家が同+11.6%、給与が同+100.0%、分譲が同+200.0%と増加した。



有効求人倍率は横ばいで推移

- ・7月の有効求人倍率は、前月と変わらず1.31倍となった。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比△4.2%となり、17カ月連続で前年を下回った。このうち常用は同△2.6%、パートは同△6.1%となった。主要産業別では、建設業が同+1.7%、医療・福祉が同+1.0%などと、6産業で前年を上回ったが、宿泊業・飲食サービス業が同△15.3%、卸売業・小売業が同△9.9%、製造業が同△7.6%、サービス業が同△4.3%などと、7産業で前年を下回った。
- ・新規求職者数(全数)は、前年同月比+4.9%と2カ月ぶりに前年を上回った。
- ・6月の名目賃金は前年同月比+1.6%と38カ月連続で前年を上回ったが、実質賃金は同△2.3%と30カ月連続で前年を下回った。所定外労働時間は同△3.0%と2カ月ぶりに前年を下回った。



県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

有効求人倍率は4地域いずれも前年を下回る

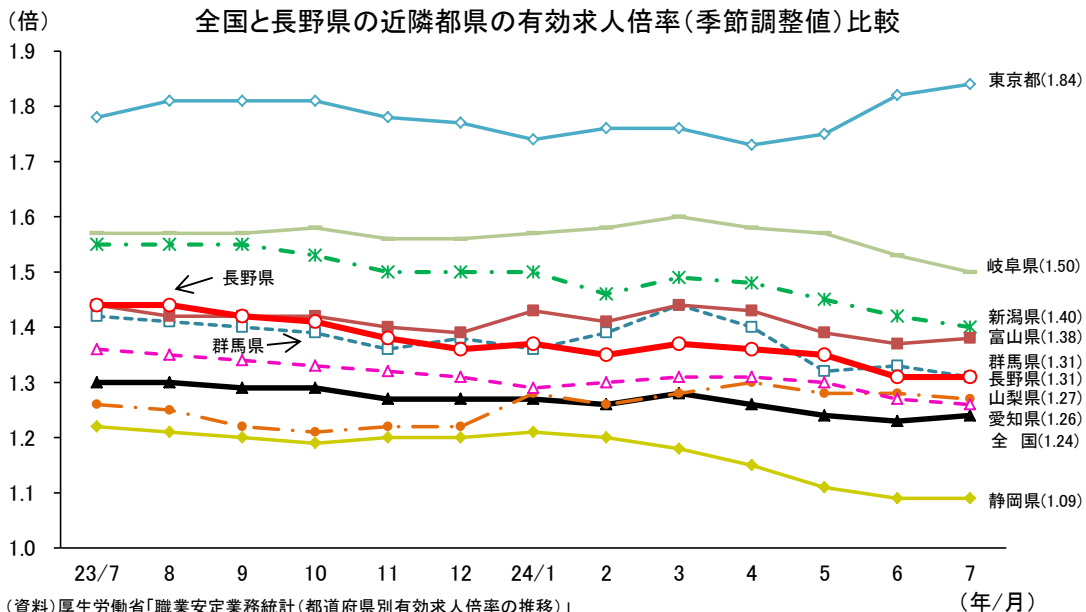
- 7月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比△0.11ポイントの1.26倍、東信が同△0.10ポイントの1.30倍、中信が同△0.16ポイントの1.32倍、南信が同△0.14ポイントの1.27倍となった。
- 職業安定所別有効求人倍率(全数)は、大町と飯田がともに1.34倍と最も高く、次いで松本が1.32倍となった。
- 長野県の有効求人倍率は46カ月連続で全国を上回り、順位は前月より2つ上げ13位となった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(24年7月)

地域	北 信(1.26) (前年同月比▲0.11)				東 信(1.30) (前年同月比▲0.10)		中 信(1.32) (前年同月比▲0.16)			南 信(1.27) (前年同月比▲0.14)		
	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曾福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.31	1.18	1.21	1.22	1.30	1.29	1.32	1.29	1.34	1.34	1.18	1.30
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.12	▲ 0.01	▲ 0.34	▲ 0.13	▲ 0.04	▲ 0.17	▲ 0.16	▲ 0.36	▲ 0.02	▲ 0.24	▲ 0.11	▲ 0.09
うち常用	1.19	1.14	1.15	1.12	1.21	1.25	1.19	1.19	1.28	1.28	1.03	1.21
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.09	▲ 0.02	▲ 0.28	▲ 0.14	▲ 0.05	▲ 0.17	▲ 0.08	▲ 0.36	0.04	▲ 0.23	▲ 0.11	▲ 0.09

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」

(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値



(資料)厚生労働省「職業安定業務統計(都道府県別有効求人倍率の推移)」

(注)1. 新規学卒を除きパートタイムを含む

2. 長野県の近隣都県および、経済規模、産業構造が類似している県